

第19回テーマ：六甲山のシダ植物



記念碑台の石垣でシダの観察

講演内容

- ①シダ植物とは？
- ②六甲山のふもとのシダ植物
- ③実際に見てみよう

(現地観察)

実施日：平成16年10月16日(土)

午後1時～4時

場 所：六甲山自然保護センター内

レクチャールーム



講師：鈴木 武さん

プロフィール

1962年生まれ
東京大学大学院理学系研究科博士過程単位取得退学。1993年より、兵庫県立人と自然の博物館研究員。

秋なのに春みたいな六甲山

六甲山は度重なる台風で、塩害の影響を受けていました。木々は所々で落葉して新芽を出したり、山桜が花を咲かせていました。もみじの紅葉もあまり見られず、秋というのに春のような季節感で例年のない異様な状態でした。

笑顔ニコニコで解説される鈴木さん

講師の鈴木武さんは、県立人と自然の博物館の研究員で、絶滅危惧植物の保全やシダ植物研究を専門とされています。たくさんのシダ植物のスライドや標本、更に携行用の資料を配布され、シダの基本的な知識や各種の特徴を解説していただきました。シダ植物はあまり馴染みがないと思いますが、実は街中でも意外と見ることが出来ることを知りました。シダの精密な構造や分類に感心し、「これもシダ植物だったのか。」と驚きの声もありました。鈴木さんは優しい口調で、細かいところまで丁寧に教えて下さいました。



たくさんのシダをスライドで紹介

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館

灘区役所 神戸市教育委員会

現地観察では22種を確認

講演で得た知識をもとに、野外観察をしました。自然保護センターを出て最初の石垣で5種類を見つけ、葉の裏を見たりルーペで胞子を確認したりしました。観察途中で珍しいシダにも出会い、約1時間の観察で22種類のシダ植物を目にすることが出来ました。その後の交流会でもシダについての話は更に続き、有意義な時間を過ごしました。シダ植物の見分けは、なかなか難しかったのですが、関心を持ついいきっかけとなりました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

会員の尾崎さんにレポートをしていただきました。

参加の感想 北山 健一郎さん

中学生時代に生物教室で教わった時の頃を懐かしく思い出させてくれました。

鈴木先生は、平易な語り口で大変分かり易く、且つ写真をラミネートした立派な資料をセットして頂きました。

実習編では、実際に自生しているシダを手にとってみて、更に親しみが実感として伝わって参りました。

日常何気なく見過ごしていたシダに注意力を持って見る眼が開かれたことを嬉しく思います。



【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山のシダ植物



第19回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ 13:00~13:15
 講演 13:15~14:10
 現地観察 14:10~15:20
 質疑応答 15:25~15:45
 懇親会 15:45~16:00

講演内容

- ①シダ植物とは?
- ②六甲山のふもとのシダ植物
- ③実際に見てみよう
(現地観察)



コシダの籠といろいろなシダ

はじめに(鈴木 武さん)

シダ植物はどんな格好をしていて、どんなものか、いろんながあると認識していただいたら結構です。まず、ホウライシダとヤブソテツの区別ができるのが条件です。(笑)

講演内容

シダ植物とは

種子や花がなく胞子で繁殖する。シダ植物の葉は細かく切れ込みが入っていることが多いが、全体で1枚。茎は地下にあるが、木のようになるものもある。湿った林の下に多いが、イワヒバのように乾いた岩の上でも育つものもある。

シダ植物はマツバラン類、ヒカゲノカズラ類、トクサ類、シダ類の4群が属する。(別表参照)

日本には約630種。兵庫県では約230種がある。小林禧樹の「六甲山地の植物誌」(1998年)では166種とある。六甲山地は但馬や丹波と比べるとシダの種類は少ないが、1日で20種近くを見ることが出来る。市街地でも、溝のある石垣に4、5種のシダが生えている。



体でシダの葉の切れ込みを表現する鈴木さん

神戸の街中のシダ植物

勾配地が多い六甲山南麓の神戸市内では、石垣などが多くいろいろなシダ植物がある。神戸市灘区神戸高校から阪急六甲駅の範囲で調べた分布では、ホウライシダやイノモトソウがかなり多い。その他にはトキワトラノオ、オニヤブソテツ、カクサ、トラノオシダなど。

- ◆ホウライシダ:神戸で見かける代表的なシダで、観葉植物のアジアンタムの仲間。
- ◆オニヤブソテツ:日本庭園に植えられることがある。



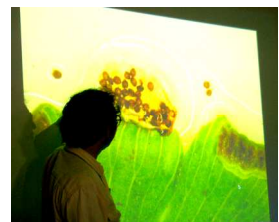
ホウライシダ



オニヤブソテツ

ホウライシダの胞子囊(ほうしろう)

ホウライシダは、葉のへりが折り返していて、約0.1ミリの大きさで胞子を包んでいる胞子囊がある。中に0.05ミリの胞子が32または64個入っている。一株で数千万の胞子がある。



ホウライシダの胞子囊

ツクシの胞子

ツクシは、だ円形をした穂の袋の中に胞子がついている。はかまは葉である。化石では1メートル位の大きいものがある。



ツクシの変化

こんな話も知った(シダの豆知識)

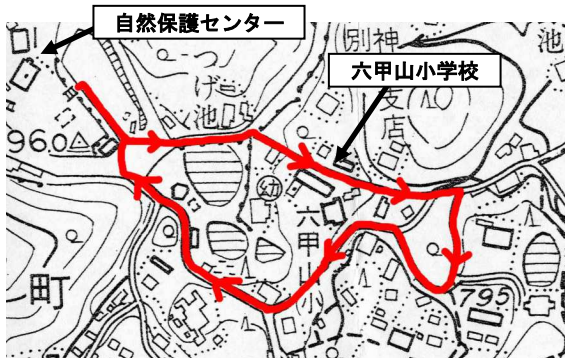
- ◆デンジソウ(田字草):田の字から四つ葉のクローバー風。
- ◆イノデ:イノシシの手足のように毛が多い。
- ◆ウラジロ:葉の成長する様子が1、2年と段々に無限成長する強さから、代々繁栄するという縁起物として、正月のしめ飾りに使われている。
- ◆シダ植物の葉にある付け根の毛:春先の芽は毛むくじゃらで役割は、冬の寒さの保護、若い葉の保護、虫からの保護。
- ◆ヘゴ科のマルハチ:木になるシダ。地上に太い茎が直立して、その上に大形の葉が傘を広げた様な形をしている。茎についた葉のあとは丸の中に八の字が残る。だからマルハチ。
- ◆マツバラン:根も無く、葉も無く、原始的な植物と考えられている。

<別表>シダ植物に属する群

マツバラン類	日本にはマツバランのみ(布引の滝の辺りに生えているらしい。)
ヒカゲノカズラ類	クラマゴケはこの仲間
トクサ類	ツクシの仲間
シダ類	現生のシダ植物の種の95%以上はこの仲間

実際に見てみよう(現地観察)

スライドで得た知識と資料をもとに、現地観察へと出発。自然保護センターから六甲山小学校へ向かい、保養所間の道で観察をしながら、約1時間で戻った。



現地観察の経路

珍しいフユノハナワラビを発見!

観察の途中で見つけたフユノハナワラビ。胞子葉が3本出ている、これは珍しい! さっそく、鈴木さんは、標本として持ち帰られた。



フユノハナワラビ

自然保護センターへ戻って休憩後、みんなで見つけたシダ植物の種類を確認し合った。

質疑応答

シダ植物の名前は? : ○○シダとは限らない。コケ、ソテツ、ランなどが名前についてもシダ類。名前だけで種類を区別してはいけない。

まとめ(鈴木さん)

今日は家に帰ってシダ種類を3つくらい思い出せれば、十分普通の人です。(笑) 1歩進むと10種位見分けられるでしょう。街中にもあるので、散歩がてらに見てみましょう。

現地観察で見つけたシダ植物

クラマゴケ スギナ フユノハナワラビ
ゼンマイ イヌシダ トキワトラノオ
コバノヒノキシダ トラノオシダ
シシガシラ オクマワラビ ヤブソテツ
ゲジゲジシダ ベニシダ ヤワラシダ
ハリガネワラビ イヌワラビ ヤマイヌワラビ
ノキシノブ ヘビノネゴザ ハクモウイノデ
ホソバシケシダ イワヒバ(栽培)
合計22種(読み上げ順、囲んでるのは写真参照)



オクマワラビ



ゲジゲジシダ



ヤマイヌワラビ



イワヒバ(栽培)

参加の感想 舟木 冴子さん

エーッ!これが生えているところに金(きん)が出るの?お金に目がない私は「ヘビノネゴザ」と教えていただいたシダを特にチェックしました。ゲジゲジシダをはじめ22種類のシダを短時間でウォッチング出来てラッキーでした。



◆参考・配布資料など:

1. 携行用資料
(ラミネート加工)
①神戸のまちなかのシダ植物
②六甲山のシダ植物
2. スライド「シダ植物」
3. シダ植物の標本
4. コシダで作った籠



◆参加者の声~アンケートより~

- ・少し歩いただけでこんなにいろいろな種類のシダ植物があるとは思わなかった。
- ・レクチャーとフィールドのバランスが良かった。
- ・もっと時間が欲しかった。

☆参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者: 27名(順不同・敬称略)

鈴木 武 遠井 方子 八木 浄 村上 定広
澤田 中 石田 澄子 青木 孝子 白岩 卓巳
北山健一郎 舟木 冴子 藤當 和子 星山 修
白石 郁子 近藤 佳里 山内 邦子 垣井 清澄
垣井 一美 戸田 信示 泉 美代子 兼貞 力
堂馬 英二 松井 光利 中川貴美子 小野 律子
藤井宏一郎 尾崎 尚子 菖蒲 美枝

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2001 FAX: 079-559-2007
URL: <http://hitohaku.jp/> Mail: root@hitohaku.jp